

民主化闘争情報

No. 1024
2019年11月5日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

10月10日～11日、日本労働組合総連合会（連合）第16回定期大会が都内で開催され、産別、地方連合会などから総勢約2,000名が出席した。JR連合も連合構成組織として参加、提起された運動方針案に対して「グループ会社の隅々まで労働組合の必要性を訴求し、労働組合の組織化・組織強化を加速させ、健全で強固な労使関係を構築していかなければならない」と訴え、JR産業で働くすべての仲間の総結集への決意を堂々と表明した。

役員改選では、JR連合荻山会長が中央執行委員に選任され、神津会長をはじめとする新たな執行部が発足した。一方、JR総連は、登録人員の大幅な減によって、今大会で連合中央執行委員に再選されなかった。連合が発足して以来、鉄道労連時代から担ってきた執行部の立場を、結成30年の節目を迎える今大会で失う事態となった。

連合結成30年・第16回定期大会

JR総連、連合執行部から外れる！

～組織人員が2万2千人まで減少～

JR総連は、9月中旬、直加盟だったソフトバンク労組（組合員数4,500人）が7月末で脱退したことを受けて、連合に対して2020年度の登録人員と会費納入人員の変更を申し出たようだ。その結果、組織人員数は2万2千人程度となり、昨春闘のストライキ権行使にまつわる動きの中で発生した組合員の大量脱退によって、およそ4万名の減となった模様である。

元JR総連組織内議員の秘書が組織破壊行為！

そうした組織の凋落ぶりに歯止めのかからないJR総連内部で“内輪揉め”が収まらない様子である。JR総連の情報によると、JR東労組中央本部批判をネット上で繰り返してきたサイト「真実の声」の管理者がJR東労組東京地本の特別執行委員の畠山浩信氏だったことが明らかとなったようだ。「真実の声」は、JR総連をはじめ加盟単組からも「組織破壊以外の何ものでもない」とされていたものであり、その「真実の声」の管理者が、畠山氏だったことには流石に驚いた。なぜなら、畠山氏は、現在JR総連の副委員長を務める田城郁氏の参議院議員時代の公設第一秘書を務めていた人物であるからである。JR総連は組織の総力を挙げて田城郁氏を国政に送り出し、畠山氏は側近として田城氏の議員活動を支えてきたキーパーソンともいえる。その人物にJR総連はまんまと裏切られていたのである。

JR総連は、「畠山浩信君が内部から嘘と誤魔化しの『真実の声』を発信し続けてきた行為は、JR東労組の総団結破壊であり、組織強化のために職場で組合活動を担ってきた役員・組合員への背信行為以外のなにものでもない」とする見解を発出し、畠山氏の解任を求めた由。果たしてこのまま終息に向かうのか、はたまた、新たな組織混乱が発生するのか。至る所に火種が燻っているようである。

よく組織の終末期に垣間見られるこうした組織混乱。さて、JR総連は今後どのような道を進むのだろうか……。

組織内部は未だ混乱、連合運動における

JR総連の存在感や信頼感は今もはや風前の灯か!?